

ごあいさつ



昭和 57 年度岡山県芸術祭の中心公演として、倉敷市少年少女合唱団が、オペラを演ずることについて心からお祝い申し上げます。

オペラは、芸術部門各分野を網羅した総合芸術でありまして、これに取り組まれた少年少女の皆さんは夏休み返上で頑張っておられたと思います。

又指導された先生方はそれ以上に大変なご苦勞であつたらうとお察しいたします。

倉敷市少年少女合唱団の皆さんは、その 10 周年を記念して今年の春倉敷市の姉妹都市“サントペルテン”を中心に、ヨーロッパ各地で親善演奏を実施されました。

このたびの公演には、この交歓会で得られたヨーロッパの優れた音楽の素晴らしさを基礎に、暑い最中の猛練習が立派な結果をもたらすものと期待しております。

又、創作オペラとして企画、作曲、振付、演出、その他を担当された先生方、それによって実際に子供達を指導された先生方、ただ単に唱うだけではないオペラ、練習期間も十分とは言えず、大変な仕事であつたらうと思いますが、この公演に情熱を傾けられた皆さん方の努力は必らずや、芸術の秋を飾るにふさわしいヒット公演として県民の皆さんから賞賛を浴びることを確信し、その成功を心からお祈りします。

倉敷市教育長

三 島 一 夫

ご あ い さ つ



昭和 57 年度岡山県芸術祭中心公演・創作オペラ「バースるーむパーティ」の公演にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

岡山県芸術祭は、県民の皆様にも優れた芸術を鑑賞していただくとともに、県下で行われている各分野の芸術活動に対して創作発表の機会を提供することを目的として、昭和 39 年から始められ本年度で第 19 回を迎えました。この間、県内外の芸術団体関係者のご尽力を賜り県文化の振興に有意義なプログラムをお届けしてまいりました。

オペラは、昭和 54 年に次いで 3 年ぶりの登場ですが、今回の「バースるーむパーティ」は、原作、脚色、作曲、演出、振付、美術等に加え、出演や演奏も全て県内で活躍するメンバーにより上演されるもので、県芸術祭の中心公演としてまことにふさわしい企画と言えます。

この公演を通して皆様がオペラの楽しさを味わってくださるとともに、毎日の生活を豊かでうるおいのあるものにしてくださることを願ってやみません。

最後になりましたが、本日の公演実施にあたり、ご協力賜りました関係各位に衷心から御礼申し上げます。

岡山県教育長

佐藤章一

—原作・脚色者のことば—

「バースるーむパーティ」を書いて

石見 まき子

「バースるーむパーティ」をオペレッタに、というお話をきいて、私は目をみはりました。この作品がきっかけで本（借成社刊・日曜日はパンを焼く日）にもなりましたが、何分にも生活のにおいっばいです。そんなのが音楽劇になるのだろうかと感じました。でも、それをこどもたちの歌声にのせたい、とのお話には正直うれしくて胸が熱くなりました。本の中にとじこめられていたゲンがとびだして歌う。リョウヘイも歌う。おふろやでの底ぬけに楽しい誕生パーティが舞台に再現される。なんてすばらしいことだろう、そう思いました。どんなものになるかの心配は、うかうかと脚色をひきうけてしまったあとにどっとおしよせました。

作者としてどこまで作品をつきはなして見ることができるかが問題だと思いました。けれど、なれない歌詞作りに精だしながらも心は楽しんでいました。

なにもかもオリジナルで創りあげる熱気が日ごとにもりあがっていき、私はぐいぐいとひきこまれていきました。音楽が、文学よりももっと重要である、私にとってこのオペレッタ化は一生の感動として残るでしょう。

—作曲者のことば—

河田 文忠

昨年10月頃のことだったと思いますが、鈴鹿先生から、「倉敷少年少女合唱団の十周年記念に、オペラを作曲して下さい。」とのお電話をいただきました。その時、思い出したのは、以前、合唱団に所属する子供達の詩に曲をつけたこと、そして、その練習のときの子供たちの生き生きとした表情と、輝く瞳です。しばらくして、原作者の石見先生からすばらしいシナリオが届いて、ますます意欲がわいてきました。

しかし、基本的な考え方として、

- (1) 子供達にとって歌いやすいものにする。
- (2) 全体の雰囲気、音楽では軽快で明るい感じにし、その他の要素は演出・振付・美術の先生方にお任せする。

ということで作曲を進めました。

5月5日に、ボーカルスコアが完成し、ふり返ってみると、とても多くのことを学ぶことができたと感じます。

最後に、鈴鹿先生、河合先生をはじめ、合唱団の諸先生方の情熱に敬意を表すると共に、当日のステージを心から楽しみにしています。

企画・制作にあたって

倉敷少年少女合唱団団長 鈴 鹿 正

倉敷少年少女合唱団を指導して10年がたちました。その創立10年を記念して、2つの大きな企画をたてました。それはヨーロッパ演奏旅行と、創作オペラの制作です。前者は今年の春、倉敷市の姉妹都市サンクトペルテンを親善訪問することによって実現しました。「歌は世界のことば」を身をもって体験し、音楽の本場でバクダシのような拍手を受けました。その感動は今も一人一人の胸に燃え続けています。

次に、創作オペラの制作は、岡山県芸術祭の本年度の中心公演としてとりあげていただくことになりました。総合芸術といわれるオペラを2,000人収容の倉敷市民会館において、本格的な舞台装置のもと、オーケストラに乗せて歌えることは、音楽するものにとって無上の喜びです。しかも、それは手づくりで初演です。子供のオペラとしては日本であまり例のないことでしょう。

週一回の短かい練習と、声量に限りのある子供の合唱団ではありますが、県・市当局の物心両面にわたる援助と、私を取りまく県内のそれぞれの芸術分野で活躍の方々のご協力を得て、ともかくこの夢も実現する運びとなりました。ここに関係の皆様方に心より厚くお礼申し上げます。

ともすれば、昨今、子供たちの志向する美への誘いは、低俗なマンガや、じゃらじゃらしたテレビの娯楽番組によって打ち消されがちですが、子供たちの情熱と、ひたむきな心のあらわれとが作品と同化し、やがて自分の翼をもって未来にはばたくものと信じています。そして、私たちの探り求めているものが何であるかもお汲みとり下さって暖かいご声援をお願い申し上げます。

第二部

バースるーむパーティ (三幕六場)

上演時間約 50 分

| | | | | |
|-------|---------|----------|-------|-------------|
| 企画・制作 | 鈴 鹿 正 | ゲン | 藤井 達也 | 茶屋町小 6 年 |
| 原作・脚色 | 石 見 まき子 | マサコのお母さん | 松本 薫 | 倉敷南高 2 年 |
| 作 曲 | 河 田 文 忠 | 魚正のおばさん | 慶児 道代 | 倉敷南高 2 年 |
| 演 出 | 曾 和 敏 明 | ゲンのお母さん | 野崎 幹子 | ソプラノ |
| 舞台構成 | 高 谷 芳 夫 | ゲンのお父さん | 大原 正義 | バリトン |
| 舞台美術 | 藤 原 郁 夫 | 先生 | 仁科喜代蔵 | バリトン |
| 舞台制作 | 大 塚 舞 台 | ケイコ | 辻野かおり | 中 洲 小 6 年 |
| | | マサコ | 田村 恭子 | 大 高 小 5 年 |
| | | マサオ | 末松 茂敏 | 葦 高 小 6 年 |
| 管 弦 楽 | 倉敷管弦楽団 | ユミコ | 大部 貴子 | 万 寿 小 6 年 |
| 合唱指導 | 河 合 健 | マサユキ | 佐野 洋介 | 葦 高 小 6 年 |
| 指 揮 | 鈴 鹿 正 | ヒロミ | 加藤 礼子 | 大 高 小 5 年 |
| | | ナツエ | 岩崎 貴子 | 味 野 小 6 年 |
| | | ジロウ | 三浦 慎 | 老 松 小 5 年 |
| | | メグミ | 藤原 晶子 | 帯 江 小 6 年 |
| | | ハルヨ | 西江 宏美 | 万寿東小 5 年 |
| | | リョウヘイ | 薬師神 司 | 菅 生 小 5 年 |
| | | ヒロシ | 恒枝 直人 | 倉敷西小 5 年 |
| | | 女の子 | 内田 真江 | 多津美中 1 年 |
| | | | 栗坂 泰子 | 庄 中 1 年 |
| | | | 山下 順子 | 倉敷第 1 中 1 年 |
| | | | 酒井 真紀 | 葦 高 小 6 年 |
| | | | 西原 純子 | 中 島 小 6 年 |
| | | | 丸川 浩子 | 万寿東小 5 年 |
| | | | 長谷川文子 | 大 高 小 5 年 |
| | | | 酒井 有紀 | 葦 高 小 5 年 |
| | | | 田中 光 | 総社東小 5 年 |
| | | | 三宅 由人 | 倉敷西小 5 年 |
| | | | 片山 実 | 倉敷西小 5 年 |
| | | | 内田 友久 | 倉敷西小 5 年 |
| | | 男の子 | | |

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

第一部 合唱

倉敷少年少女合唱団

指揮 河合 健

伴奏 河合恵子

- |                  |        |             |
|------------------|--------|-------------|
| 1. 串本節           | 和歌山県民謡 | 若松正司 編曲     |
| 2. 草津節           | 群馬県民謡  |             |
| 3. ずいずいずっころばし    | わらべ歌   |             |
| 4. プリーズミスターポストマン |        | H・G・ベイテマン作曲 |
| 5. シング           |        | ジョー・ラパン作曲   |

予科団員（本年5月入団）

指揮 高須久美子

伴奏 田中佐枝子

- |                |                     |             |
|----------------|---------------------|-------------|
| 6. 大きな夢のマーチ    | いずみさやか作詞            | 平吉毅州 作曲     |
| 7. 未知という名の船に乗り | 阿久 悠 作詞             | 小林亜星 作曲     |
| 8. 涙のトッカータ     |                     | ガストン・ローラン作曲 |
| 9. 踊り明かそうよ     | ミュージカル「マイ・フェアレディ」より |             |
|                |                     | 指揮 鈴鹿 正     |
|                |                     | 伴奏 中田千恵子    |
| 10. フレンズ       | 榎木富士夫作詞             | 寺島尚彦 作曲     |
| 11. 二人の天使      |                     | S・プルー 作曲    |
| 12. スターウォーズ    |                     | J・ウィリアムス作曲  |

桃太郎少年合唱団（賛助出演）

指揮 棚田国雄

伴奏 中野啓子

- |                |        |          |
|----------------|--------|----------|
| 1. 希望の岡山       | 中野雅恵作詞 | 高田信一 作曲  |
| 2. 気球にのってどこまでも | 東 龍男作詞 | 平吉毅州 作曲  |
| 3. 荒城の月        | 土井晩翠作詞 | 滝廉太郎 作曲  |
| 4. おゝブレネリ      | スイス民謡  | 棚田国雄 編曲  |
| 5. グローリア       | 夏目利恵作詞 | モーツァルト作曲 |

## 倉敷少年少女合唱団プロフィール



昭和 47 年 4 月倉敷文化センター講座「子どもコーラス教室」が開講され、30 数名の歌の好きな子ども達が集まりました。これが倉敷少年少女合唱団の前身で、2 年後の昭和 49 年に独立し本格的な合唱活動に入りました。以後 7 回の定期演奏会をはじめ数多くのステージを経験しました。ボニージャックス、小鳩くるみ、ペギー葉山さんとの楽しいステージ、杉並児童合唱団やハノーバー少女合唱団、テキサス少年合唱団との交歓演奏会どれも思い出に残るステージばかりです。

また、松江、神戸、北九州、岐阜、沖縄等の楽しい演奏旅行にも行き、そこで多くの友達と歌を通じ交流を深めることができました。

今年の春休みには、創立 10 周年を記念してヨーロッパへ行きました。倉敷市の姉妹都市サントペルテン市（オーストリア）での演奏会における万雷の拍手、インスブルックのヴィルテナー少年合唱団との楽しい交歓会、アルプスの雄大な姿等、忘れることができない思い出を作ることができました。

現在、団員は、本科 153 名、予科 21 名となり大きく成長しました。これからも私達の団のモットーであります「美しい歌声あたたかい友情、規律ある集団活動」を充実して益々飛躍したいと思っております。

## オペラ「バースデーパーティ」あらすじ

### 第 1 幕

第 1 場 ふろやの一人むすこゲンは、土曜日が大きらい。だって給食がなくてほらべこで、おまけに仲良しのリョウヘイはさきに帰ってしまったんだもの、一人かえっていると、同じクラスのマサコとこのおばさんがやってくる。きけば、マサコはだれかの誕生パーティによばれていったという。そして、それはいつかじぶんの誕生日にはきっとゲンをよんであげるといったケイコのパーティではないか。それなのに、ゲンはきょうよばれなかった。ゲンにとって、きょうという日、いっそういやな土曜日だ。

第 2 場 ぶらぶらかえってくると、自宅の日の出湯の前で母さんがお日さんをおがんでいる。商売はんじょうを祈っているのだ。母さんはいつも忙しい、あんのじょう、せっかくのお昼も期待通りのごちそうじゃない。つついゲンは、いま、楽しくパーティをやっているだろうケイコたちをうらやましく思った。そのとき、ふっと気がついた。「来月 5 日は、ぼくの誕生日じゃないか。」

第 3 場 番台の母さんとお客の魚正のおばさんがなにやら話しこんでいる。そこへゲンがかおをだし、「ぼくの誕生日にパーティをやりたいんだけど……」、すると母さんは……。ゲン、母さんのケンマクにおそれをなしてにげだす、父さんの所へいっても、パーティのことは切りだせなかった。

### 第 2 幕

幕 前 どうなったんだろう、あんなに反対していた母さんが、誕生パーティをやてやろうだなんて。ゲンにはわけがわからない、けれど父さんも母さんも喜んで友だち一同よんでくれることになったのだ。

第 2 場 いよいよ、誕生日の当日だ。ケイコもみんなやってきた。

第 3 場 広い明かるい湯どので、みんな大はしゃぎだ。こどもって、だれでもふろやが大好きなんだ。

### 第 3 幕

なんたって、誕生日でうれしいのは、みんなからのプレゼント、そして、母さん手づくりのごちそうの色々、ゲンはほんとうに夢のようにたのしい。ハッピーバースデーパーティだ。ところが、会のおわり近くになって立ちあがった田辺先生が、意外なことをみんなにつげた。

それは……………。

ゲンにとって、11才の誕生パーティは、いつまでもいつまでも心に残る日となるだろう。



## 演出 曾和敏明



昭和29年劇団“あかしあの会”入団，劇団“うちうみ”を経て，現在劇団“ひびき”所属。劇団代表者。その間，公演作品60本，公演回数102回，最近では昨年倉敷公演を行う。

また，各種文化団体と交流をはかりながら，演出，舞台監督，司会，朗読，出演等，他団体の公演に参加。昭和56年度岡山県文化奨励賞受賞。岡山市役所監査事務局勤務。

## 舞台構成 高谷芳夫



高谷創作舞踊研究所主宰，昭和21年リサイタル。

舞踊劇「藤の夢」，テレビ作品「花のいのち」，「蛇が洩物語」，「黄花」，「愛像」，その他，公共団体の文化事業及び各芸術分野との共同作品等。現在社団法人日本現代舞踊協会会員，岡山モダンダンス研究会会長，昭和54年度倉敷市文化連盟賞受賞，倉敷市自主文化事業協会理事，岡山女子短期大学講師，ノートルダム清心女子大学リトミック部コーチ。

## 舞台美術 藤原郁夫



岡山大学教育学部卒業。岡山美術展で県知事賞，山陽新聞社賞を連続3回受賞し，現在，依嘱。

スイス美術賞展，ミロ財団ドローイングデッサン展等に入選，「倉敷三越」，「倉敷美術サロン」などで個展11回，倉敷文化連盟常任理事，倉敷アンデパンダン実行委員，グループ現瀬戸内版画協会，日本国際美術協会会員，倉敷南高等学校教諭。

## 舞台制作 大塚舞台

— スタッフ・キャストのプロフィール —

企画・制作・指揮 鈴 鹿 正



山口大学教育学部音楽科卒業、鶴岡義雄・弘中 策・金光武義の諸氏に師事、これまでテノールとして数多くのステージをもつが、その中でもヘンデル「メサイア」・ハイドン「天地創造」・オルフ「カルミナ・ブラーナ」・宮城道雄「日蓮」などの大曲にソリストとして出演する。

倉敷音楽協会の理事長としては、児童音楽コンクールや巡回演奏などユニークな企画や幅広い演奏活動を行っている。

また、倉敷少年少女合唱団の団長（指揮者）として、沖縄をはじめ日本各地で演奏を行い、57年春にはヨーロッパ演奏旅行を実現し、技術的にも好評を博した。倉敷青陵高等学校教諭。

原作・脚色 石 見 まき子



本名、真輝子、兵庫県神戸市に生まれる。倉敷に在住して10年になる。

「くらしき童話」創刊号に入選したのをきっかけに児童文学の勉強をはじめめる。

昭和53年度岡山県文学選奨に「花かんむり」が入選、昭和55年雑誌「日本児童文学」創作コンクールに短篇「パースルーむパーティ」入選。

著書に、当作品を収載した「日曜日はパンを焼く日」借成社刊、他に「ひょうごの童話」日本児童文学者協会会員、岡山児童文学会会員。

作 曲 河 田 文 忠



東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。

作曲を長谷川良夫に師事。

作品に「ユニバシアード東京大会ファンファーレ」、「弦楽四重奏曲」、「バイオリンソナタ」、「かなしいおとなのうた」、「優しき歌」、「管弦楽のためのパッサカリア」等がある。

川崎医科大学室内管弦楽団常任指揮者、コスモスコラス指揮者、中国短期大学音楽科助教授。

倉敷少年少女合唱団オペラ出演者



ゲン  
藤井達也  
茶屋町小6年



マサコのお母さん  
松本薫  
倉敷南高2年



魚正のおばさん  
慶児道代  
倉敷南高2年



前列左より

三宅由人 倉敷西小5年  
佐野洋介 倉敷高小5年  
内井田友直 茶屋町小6年  
恒枝山藤村 倉敷西小5年  
片加藤村 倉敷西小5年  
3列目左より 加田藤村 大高小5年  
藤原晶 江小6年  
末松茂 高小6年  
綾目真 津美中1年  
岩崎貴 野小6年  
内下泰 第1中1年  
栗坂真 庄中1年  
内田真 多津美中1年

2列目左より

神浦江井野中川 菅生小5年  
西酒辻田丸 老松小5年  
酒井野中川 万寿小5年  
大妹慶松西 葦高小5年  
井部尾兒本原 中州小6年  
井部尾兒本原 総社東小5年  
井部尾兒本原 万寿東小5年  
後列左より 井部尾兒本原 葦高小6年  
大妹慶松西 万寿小6年  
井部尾兒本原 玉島東中1年  
井部尾兒本原 倉敷南高2年  
井部尾兒本原 倉敷南高2年  
井部尾兒本原 島小6年

合唱隊

ソプラノ

石見東子 広田准子  
中西かおり 徳増克美  
綾目真和 妹尾恵利  
瀧水子 日笠喜理

メゾソプラノ

石井敬子 松村佳子  
織井幸恵 岡本美恵  
井木克美 岡本由香  
竹中省子 岸本典子  
阿久井早苗

アルト

久保靖子 永野美千代  
安井英子 須山純江  
浅倉史歩 永瀬智子  
大橋倫子 小松由紀  
村田美紀 小幡華

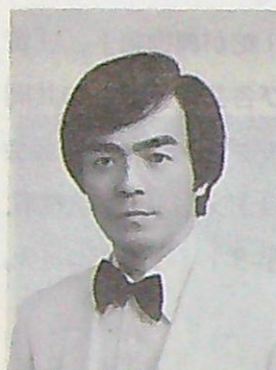


## ソプラノ 野崎 幹子

国立音楽大学声楽科卒業。

糸賀英恵、柴田睦陸、武岡鶴代、木下武久、エレン・ボゼニウス、リア・グァリーニ、ユルゲン・グラウスの諸氏に師事。

昭和45年ザルツブルグモーツアルテウム夏期講座にてスザンネ・アンダース教授に師事。オペラ「孤々譚」のお春、「フィガロの結婚」のスザンナ「アマールと夜の訪問者」の母親、岡山市民文化ホール落成記念行事創作オペラ「雪女風土記」の雪女、「ドンジョバンニ」のドンナ・アンナ、創作オペラ「シガマの嫁っこ」のシガマ等に出演、東京、大阪、岡山にて2回のジョイントリサイタル、6回のリサイタルを開催し、その他多くの演奏会、ラジオ・テレビの放送に出演。昭和54年8月より西ドイツ、ケルンに留学、その間ミラノにてもイタリアオペラを学ぶ。昭和55年スペイン、バルセロナにおいて「モーツアルト国際声楽コンクール」で2位受賞。スペイン、ドイツ各地でジョイントリサイタル、その他多くの演奏会、ラジオ放送に出演、二期会中・四国支部、岡山現代日本音楽の会会員。



## バリトン 仁科 喜代蔵

東邦音楽大学音楽科声楽専攻。富田義助、水戸部克己の両氏に師事。昭和44年第2回岡山県新人演奏会出演、昭和50年二期会中・四国支部オペラ公演「アマールと夜の訪問者」に出演、その他倉敷音楽協会及び楽興の会等の音楽会にて演奏活動を行っている。今年アイビーホテルの中庭で行われたサマーコンサートに出演した。

倉敷市合唱連盟理事長、岡山フロイデ合唱団及び水島コールピククルス指揮者、倉敷南高等学校教諭。



## バリトン 大原 正義

国立音楽大学声学科卒業。井上貞一、益田遥諸氏に師事。ヘンデル「メサイヤ」、フォーレ「レクイエム」、ハイドン「天地創造」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」にソリストとして出演。オペラ「アマールと夜の訪問者」の王様役、「海の子守唄」の網元役、「ポギー&ベス」のクラウン役「魔笛」のザラストロ役、「仏陀」のスッドーナ王で出演。中国短期大学保育科、音楽科講師。二期会中・四国支部会員。川崎製鉄水島混声合唱団、岡山大学男声合唱団コール・ロータス・ヴォイストレーナー。



## 合唱指導 河合 健

倉敷市立玉島小学校教諭。

金光学園在学中松田豊治氏より声楽のレッスンを受ける。愛媛大学在学中、久米孝義氏より児童合唱指導法の手ほどきを受けて以来25年、子どもたちの歌声の持つ魅力にとりつかれ、その道一筋に歩む。

~~~~~ オーケストラ出演者 ~~~~~

| | | | |
|----------------------------|---|-------------------------|----------------|
| Vn I (第Ⅰヴァイオリン) | 菊池 東 中桐 佐知子 塚本 千秋 中上 裕子 橋詰 万里子 浅井 直樹 | Fl (フルート) | 古川 兼生 松岡 倫代 |
| Vn II (第Ⅱヴァイオリン) | 池上 俊昭 赤沢 和美 三村 卓司 黒住 晃代 | Ob (オーボエ) | 角田 容子 寺阪 至徳 |
| Va (ヴィオラ) | 黒住 彰夫 友野 良一 武本 克己 | Cl (クラリネット) | 高杉 玲子 川名 光治 |
| VC (チェロ) | 西田 毅雄 田辺 幹夫 津下 典子 | Fg (ファゴット) | 稲田 裕彦 成本 峰子 |
| CB (コントラバス) | 松本 高広 本屋敷 勝信 | Hr (ホルン) | 吉市 幹雄 西崎 大修 |
| | | Tinp (ティンパニー) | 平松 泰一 |

桃太郎少年合唱団プロフィール



桃太郎少年合唱団 第19回定期演奏会 S.56.11.29 於岡山市民会館

昭和37年に開催された岡山国体を記念し、当時の三木行治知事（故人）の提唱により地方青少年の文化の向上と健全育成を目的として設立された。翌年第一回の定期演奏会を開催し、毎年秋に練習の成果を公開してきましたが、本年は記念すべき第20回目の定期演奏会をOBの参加のもと盛大に実施する予定です。この間、西日本連盟、県連盟の演奏会、県内外諸団体への賛助出演、公的行事での演奏、テレビ出演など約200回の演奏活動をしてきました。特に、創立20周年行事として昭和55年には、海外演奏として、ハワイ州ホノルルで、ホノルル少年合唱団とのジョイントコンサートを実施、昭和56年には来岡したソフィア少年少女合唱団との交歓演奏会を実施し、国際親善の役目も果たしてきました。

現在、小学校3年生から6年生までの約80名の編成で練習に励んでおります。倉敷少年少女合唱団の皆様の10年間のすばらしい活躍に敬意を表するとともに今後のますますのご発展をお祈りし、同じ合唱の仲間として手を取り合っていきたいものと念願しております。

倉敷管弦楽団プロフィール



文化都市倉敷にふさわしいユニークな楽団として、昭和49年12月に発足した倉敷室内管弦楽団は、古典を中心にバロックから現代曲まで幅広い演奏活動で、岡山県を代表する楽団に成長し、現在団員数は80数名にのぼり、本年度よりさらに新たな飛躍を求めて「倉敷管弦楽団」と名称変更しました。

発足以来、美しい音色と高度な技術には定評があり、フルートのジャン・ピエール・ランパル氏との共演を始め、バイオリンの和波孝禧氏、ピアノの深沢亮子氏、チェロの安田謙一郎氏、オーボエのディーテルム・ヨナス氏等との共演や昭和55年には、團伊玖磨氏作曲の「管弦楽のための高梁川」の初演発表会の成功、オペラ「魔笛」の演奏等着実な活動を続けています。本年度は3月26日岡山市民文化ホールに於いて「ピアノ協奏曲の夕べ」、6月6日倉敷市民会館に於いて第8回定期演奏会を開催、12月13日（月）岡山市民文化ホールに於いて倉敷管弦楽団岡山公演（ドボルザーク交響曲第8番etc）を予定しています。